

# 原発再稼働賛成11反対3

## 過半数20人明言せず

28日投開票の薩摩川内市議会議員選挙（定数26）で、南日本新聞は立候補者34人（現職28人、新人6人）を対象に、九州電力川内原発の再稼働や3号機増設問題などに関するアンケート調査を実施した。原発再稼働に「賛成」と答えたのは11人、「反対」3人だった。過半数の20人は「国の方針を見極める」「現段階では判断材料がない」などの理由で賛否を明らかにしなかった。

アンケートは5項目。川内原発の再稼働と3号機増設の賛否を選択で、富士通系工場撤退に伴う雇用対策を含む地域活性化策や、任期中に取り組みたい政策テーマを記述式で求めた。10月中旬に実施し、33人（現職27人、新人6人）が回答した。1人からは全ての質問委で回答が得られなかった。

再稼働問題で「賛成」としたのは11人（現職7人、新人4人）。地域経済への影響を懸念し、安全対策や政府と原子力規制委員会が安全性を保証した上での「条件付き」で容認する候補が多かった。

一方「反対」は現職3人。福島第1原発事故を受け、影響の大きさを指摘。原発なしで夏を乗り切ったことから、必要性を否定する意見もあった。

最も多かった回答は「分からない」・無回答で20人（現職18人、新人2人）だった。国のエネルギー政策に対する方針は示されたものの、先行きが不透明なことから、国や原子力規制委の動向を見守る考えを示す人もいた。

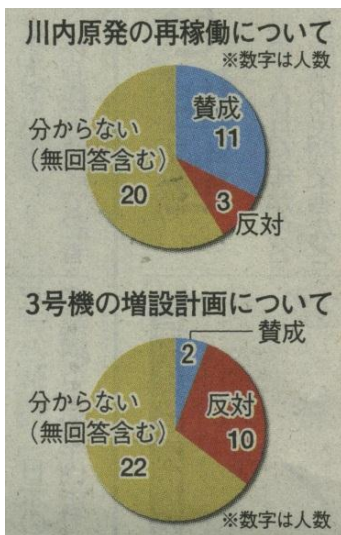
3号機増設では「賛成」が現職2人、「反対」と答えたのは10人（現職8人、新人2人）エネルギー政策に対する方針は示されたものの、先行きが不透明なことから、国や原子力規制委の動向を見守る考えを示す人もいた。

3号機増設では「賛成」が現職2人、「反対」と答えたのは10人（現職8人、新人2人）だった。「分からない」・無回答は22人（現職18人、新人4人）。国の動向が見通せないことから「判

断材料不足」として、「賛成」「反対」「分からぬ」の三つの選択肢には当てはまらないとする候補者が多かった。

### 質問項目

- 問① 政府は原発ゼロ方針を打ち出しました。川内原発の再稼働をどう考えますか。またその理由を教えてください（「賛成」「反対」「分からない」の3択と理由）。
- 問② 川内原発3号機増設計画をどう思いますか（「賛成」「反対」「分からない」の3択）。
- 問③ 富士通系の工場閉鎖で地元経済に大きな影響が出ることが予想されます。8年が経過する合併の評価も踏まえ、雇用対策など地域活性化に何が必要と考えるか、具体的に答えください。
- 問④ 任期中に取り組みたい政策テーマについて、具体的に挙げてください。
- 問⑤ 尊敬する人物や目指す政治家は。



## 地域振興 次世代エネ推進多数

地域活性化策を尋ねた問いでは、次世代エネルギーのまちづくりや雇用を推進する意見が目立った。福島第1原発事故以降、次世代エネルギーが注目を集める中、新たな産業として活用し、雇用につなげようとの思いがうかがえる。

雇用拡大へ地域資源を生かし、農畜産業、水産業の6次産業化や観光産業の推進を図るべきとの声も多かった。

「地元で操業する企業の安定的発展のため、工業製品の地産地消に取り組む」「地域内の起業家の発掘支援や市外からの受け入れ」など、企業誘致に頼らず、地域に密着した産業育成を目指す姿勢もみられた。

任期中に取り組みたい施策も、雇用対策と経済活性化策が目立った。少子高齢化が進む市の現状を踏まえ「子育て支援」「高齢者対策」を重視する回答が多かった。災害に強いまちづくり、議会改革を掲げる候補もいた。

理想の政治家や尊敬する人物（複数回答も）として、西郷隆盛と答えた人が6人、田中角栄が4人だった。

**平成24年10月25日（木）／南日本新聞**